

検討委員会の意見を踏まえた中学校給食の実施に向けた 基本的な考え方の整理について

【第2回検討委員会までの主な意見】

- 学校給食法に掲げられている給食の目標へ到達させられるように検討することが重要である。
- できる限り早期に実施すべきである。
- 以前に廃止された経緯から同じような理由で廃止されないようにすべきである。
- 現在の小学校の給食は、減塩給食など全国にも紹介され、給食指導もされており、小学校給食の良さが中学校でも踏襲されるとよい。
- 子どもの食の状況の変化や、中学生になると心身ともに不安定になることへの配慮が必要である。
- 学校現場を総合的に支援する視点をもち、学校現場に過大な負担がかからないよう、教員の意見を聴きながら進めるべきである。

【第2回検討委員会の基本的な考え方（案）に対する主な意見】

- ◆ 学校教育的な視点が薄い。地産地消の推進と併せて食文化や自然といった視点を含めてはどうか。
- ◆ 小学校給食で実施されている減塩、和食、手作りといった草津らしい取り組みを踏まえて考え方を提示すべきである。
- ◆ 小中学校の9年間を通した食育推進に関して、草津らしい取り組みを検討すべきである。
- ◆ 食の内容だけでなく、運用なども総合的に含めたものとすべきである。
- ◆ 円滑な導入に向けては、教員への負担を減らすことが重要。現実に運用する中学校現場が対応できるよう、現場をバックアップする体制も含めて議論が必要である。